

キャラクター名
夜ノ目 月食 (やのめ つきは)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	暗殺者	カヴァー	ギルドメンバー
	パロール					
オプション	年齢		12	性別	女	
覚醒	命令	衝動	飢餓	初期侵食率	30 %	
出自	権力者の血統	経験	危険な仕事	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	0			1	行動値	11
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	11
精神	4	0	0	1		5	戦闘移動	16
社会	1	0	0			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚			意志			調達	4	
運転:自転車	2		芸術:			知識:地理	2		情報:裏社会	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
日本刀		-1	0	5		
ツキハミ	白兵	8r+2	0	0		1+2+3+4、装甲無視
ハンラングッショク	白兵	8r+2	0	0		1+2+3+4+5、装甲無視、範囲(選択)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
カジュアル・携帯	
日本刀	
ウェポンケース	
コネ:噂好きの友人	
コネ:情報屋	
コネ:要人への貸し	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
特異点	P	N		
一族の歴史	P 尊敬	N 嫉妬		
母親	P 慈愛	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ウロボロス	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV								
無業の影	1	4	メジャー	-	-	-	-	
効果: 1ラウンド1回、【精神】置き換え判定								
原初の赤:ペネトレイト	1	4	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: ダイス-1、装甲無視付与								
瞬速の刃	3	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: ダイス+[LV+1]個								
混色の氾濫	3	2	メジャー	-	範囲(選択)	-	-	
効果: 1シナリオLV回、《原初の●》組み合わせ時範囲(選択)に変更								
イージーフェイカー	1							
効果: 写真記憶								
偏差把握	1							
効果:								
ディメンジョンゲート	1							
効果:								
ポケットディメンジョン	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「ただ依頼を受けて殺すわけじゃないよ、依頼人の気持ちを読んで私は暗殺業をやっている」
「さて、それじゃあ、『語ろうか』。貴女のために、とある一族の末裔のたどった日々を……」

【基本設定】
ギルドに所属している「夜ノ目」の一族、17歳の女の子
長い黒髪をポニーテールにしてる、基本的に爽やかな笑顔でいる

性格は穏やかでとつきやすいタイプ、気軽に話しかけられても知らない相手でも平常心で対応できる
ただ、その心には強い信念を持っている、一族が代々暗殺業をやってきた事に関しては前向きな意味で誇りを持っている
曰く、人を殺すことは確かに世間一般では許されないかもしれない、だけど殺さないで救われたい人もいつの時代もある
なら私は喜んでそれを引き受けよう。とのこと
己の行為を犯罪とわかっていて、それでもその行為を遂行するためにギルドに身を置いている

ギルドでは暗殺や傭兵、実働部隊として動いている

代々『語り部』を継いでいる夜ノ目の一族、初代の時から抜群の記憶力を持っている
一族の代々がどのように続いてどのようにどのように歴史を紡いでどのように途絶えたかということまでをすみずみまで記録している
体質(Dロイス:特異点)のせいか、偶然他の夜ノ目の一族を相手に気づかれないまま見つけることがある
そのまま気づかれないまま後をつけて、物事を見て一族の末裔がどのような日々をたどったのかをノートに記録している、ノートはポケットディメンジョンの中に入れていたため中を見ることは不可能
とある女性に会った時にだけ、固く閉ざされていたノートを開き記録を語ることがある